

大谷 徹瑒氏

連合駿台会報

No.347 令和元年9月15日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052千代田区神田小川町三十二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (〇三) 三二九六―四七四七
 印刷 有限会社 美 創

連合駿台会七月例会

「幸せの条件」

薬師寺副執事 大谷 徹瑒氏

連合駿台会令和元年初の七月例会を、七月十七日(水)十七時四十五分より、明治大学「紫紺館」三階会議室で、大谷徹瑒氏をゲストスピーカーとして開催しました。

開会に先立ち、田村駿会長から次のような挨拶がありました(挨拶主旨)。

五月の総会の時に、皆さま方に当会のバッジをお渡ししましたが、愛用していただいているだろうか? このバッジには連合駿台会の長い歴史と伝統、皆さま方のプライド、そして会に対する強い結束の思いが込められている。ということ、例会の時には是非つけてご出席いただきたいと思う。

ご報告事項としては、監事の坂田英夫氏から、六月一日付で一身上の都合による監事辞

任の届け出があった。熟考した上、後任には渡邊建三氏(昭和五十二年・法学部卒、(株)アクトワンヤマイチ代表取締役社長、公認会計士)をお願いすることを、先般の理事会でも承認いただいた。来年は役員改選期なので、任期はそれまでとなる。

最後に嬉しいニュースを二つお話ししたい。周知の通り、硬式野球部が全日本大学野球選手権大会で三十八年ぶり、六回日の日本一に輝いた。エースで主将の森下暢仁君は、ドラフト一位候補としての呼び声も高く、秋のリーグ戦も楽しみである。もう一つは、当会の特別顧問の向殿政男名誉教授が、都市計画法・建築基準法制定一〇〇周年記念「国土交通大臣表彰」を受賞されたので、後ほど記念品を贈呈して、皆さま方と一緒にお祝いしたいと思っている。

本日の講演は、薬師寺の大谷徹瑒さんにお出でいただいた。全国各地で「心を耕そう」をスローガンにご法話行脚でご活躍だとお聞きしている。有意義で素晴らしいお話が伺えるものと楽しみにしている。

当日の講演の主旨は以下の通りです。

* **心のしくみを分析する**

「お寺」と聞いてどんなイメージを持つか? というアンケートをとった結果、一番はお墓、二番は葬儀だった。しかし薬師寺を

め、奈良を代表する法隆寺や東大寺は、お寺にお墓を持たず、葬儀に関わることはない。その伝統がものすごく厳しい薬師寺は、同僚の僧侶が亡くなってもお経をあげることはない。極端な言い方をすると、薬師寺というお寺は、亡くなった方を対象としていない。では薬師寺の役割は何かというと、心の使い方徹底して訓練するための学校としてできた寺なのだ。

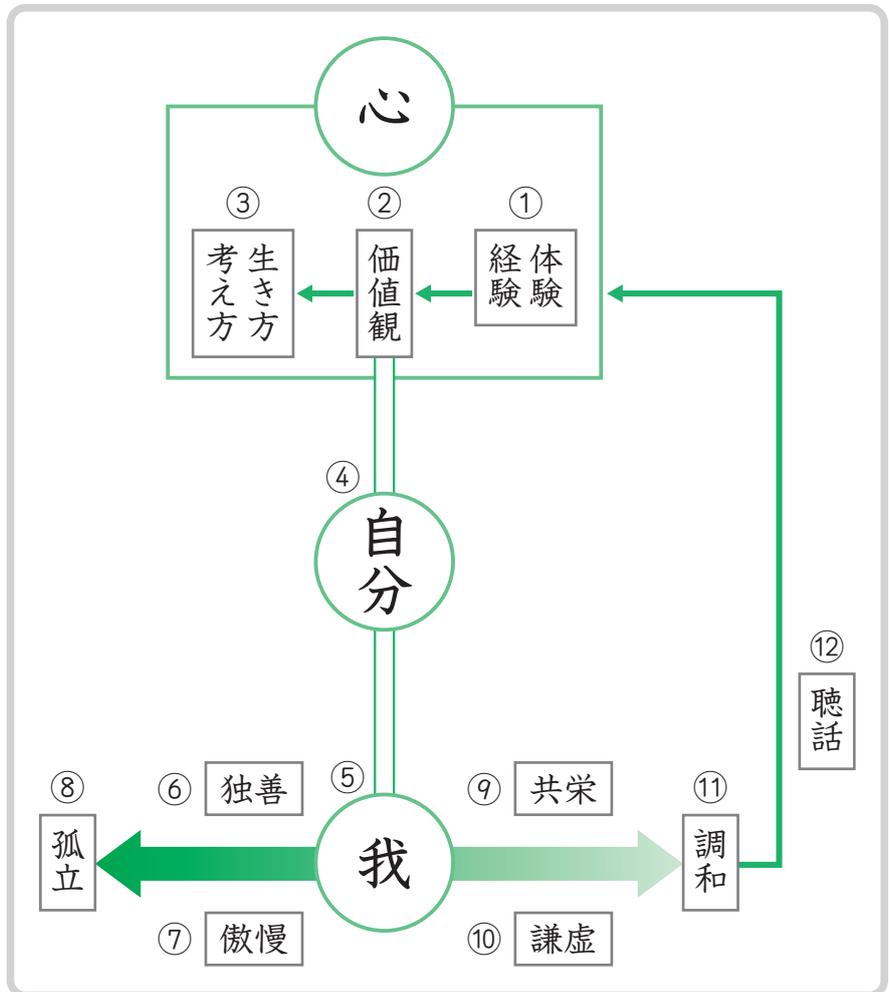
そこで「心のしくみ」について考えてみたい。心は何からできているのか、というのは仏教の基本的考え方である。しかし心は一番扱いづらいものであり、それは心のあり方がわかっていないからといえる。

お配りした「心のしくみ」のチャート式シート（下段図参照）を見ていただきたい。これは心を形作っている要素である。これに基づいてお話しするので、皆さん方には自分で書き込みながら、勉強していただきたい。世の中が、先に答えを与える時代になってしまったが、やはり自分で作って自分で考えて完成させないと、本当の意味での勉強にはならないと思うからだ。

まず①には「体験・経験」、②は「価値観」、③には「生き方・考え方」が入る。ここで「心」というものが生まれてくる。単純に分解できるものではないが、わかりやすくするため、あえて三つに分けてみた。この中で何

心のしくみ

薬師寺 副執事長 大谷徹奨



が一番大切かという「験」という字。仏教用語では「験（しるし）」という。私たちの心は本来真っ白なものなのだが、商品にバーコードがあるように、体験・経験することによって、しるしをつけていくのだ。験を身につけていくのが人生であり、験は人により違い、誰一人同じにはならない。先ほど、

自分の心のありかを自分の指でさしてください、と言ったとき、皆さんは頭とか胸とか、身体のパーツを指したが、もし指すとしたら自分全体を指すしかない。よって④には「自分」が入る。心⇨自分。自分という言葉は、もともと下に「別」と、いう字をつけて、「自分別（じぶんべつ）」というのが自分とい

う言葉の語源である。〃分別する〃というの
は、好きとか嫌い、いいとか悪いとか区別す
ることで、その感情は各々の体験により生ま
れてくるものだ。

そして「自分」という言葉を一字で書くこ
したら、⑤には「我(われ)」が入る。これ
はその読み方が大事だ。〃われ〃と読むとき
は、〃私は〃という単数の言葉になり、決し
て〃私たちは(複数)〃にはならない。何故
かという、人間はすべて、同じ経験をす
る人はいないからだ。しかしこれを〃われ〃と
読んでいるうちは問題ないのだが、他の読み
方〃が〃と読んだ途端に〃我が強い〃とい
う言葉が出てくる。

シートの、⑤から⑧に向かつて矢印の緑色
のグラデーションが濃くなっているが、これ
は我が強く出ていることを表している。反対
に⑩に向かつては薄くなっているが、先が完
全に白くはなっていないことがわかる。「我
をなくせ!」とはよく言われる言葉だが、我
はなくならない。我は自分の過去経験であ
り、人生から経験をとつたら、息をしている
だけの存在になってしまう。ただ我を強く出
し過ぎると⑧の方向に行ってしまう、人生で
一番もらってはいけないものをもらうよう
なる。自分を出すなど言っているわけではな
い。問題は私の出し方で、それ次第で逆に人
生で一番欲しいもの、つまり⑩を手に入れる

ことも可能なのだ。

私の強い人には、どういう特徴があるだろ
うか? わがまま、自己主張、自分勝手、個
性が強い、プライドが高い……、いろいろあ
るだろうが、一番の特徴は、人の話を聴かな
いことだ。皆さん方の周りで、いつも自分の
意見しか言わない、それが通じないと暴れる
人がいたでしょう。そんな人とききたい
だろうか? 生活やおカネがかかっている
も、最低限につき合って、それ以上は関わり
合いたくないというのが本音だろう。さらに
言えば、一番身近な家族にさえ「面倒くさい
から、放っておこうよ」と言われる羽目にな
る。つまり⑧には「孤立」が入る。

私たちはみんな孤独である。一人で生まれ
て、一人で判断し、一人で死んでいく……、
これは仕方ない。しかし、私たちは孤立して
はならない。私たちのことを「人」という
が、これはもともと〃ひと〃と読ませる単
数の言葉だったが、〃つ〃が略されて〃ひと
になった。たとえばいま私たちが着ている洋
服だって、自分で糸を紡いで織って縫った人
は一人もいない。つまり必ずいろいろな人の
「おかげさま」をいただいている。このよう
に私たちは人の間でしか生きていけないから
「人間」となる。そのときに一番よくないの
は孤立すること、独りぼっちになってはいけ
ない。どんなに仕事ができても、仕事から離

れて後ろを振り返ってみたら誰もいなかった
……、という人を、皆さん方も大勢見てきた
のではないだろうか。

それに対して、⑩のほうに向かつて矢印が
出ると、私たちが人生で欲しいものが与えら
れることになる。孤立を独りぼっちと訳すの
なら、その反対は仲間がいるということにな
り、これを日本の文化では「和」という言葉
で表してきた。このたび令和という元号に
なったが、私はこの言葉こそが日本民族自
の言葉だと思っている。「和」という言葉は、
〃のぎ偏と口〃から成り立っているが、これ
は〃同じ田んぼで採れたお米の収穫を祝って
食べる〃という意味で、「和む(なごむ)」と
読む。そこで⑩には「調和」が入る。この
「調」という字、〃ちょう〃と〃しらべる〃以
外に〃ととのえる〃とも読む。仲よし関係は
目の前に落ちてはいない、調えなければなら
ない。そのときに自分だけを強く出せば独り
ぼっちになるけれど、きちんと調和をとれ
ば、うまくいく。英語では「harmony」。

ここで人間の持っている五つのアンテナを
考えてみよう。目、耳、鼻、口、皮膚の五感
で、これを使っていつでも外側のことを見て
いる。だから外国で起こっていることも隣人
のこのようによく知っているし、いつでも
執拗なほど人のことを観察している。私たち
は外側のことによく知っているし、他人のこ

ともよく批判できる。それはこの五つのアンテナにはすべて表向きという共通点があるからで、自分のほうを向いているアンテナは一本もない。そこで「人の振り見て我が振り直せ」という諺ことわざが生まれるのだ。他人の私の強さはわかっていても、自分のことは見えないことで、知らないうちに我が強くなっていることもある。そこで⑥には「独善」、⑦には「傲慢」という言葉が入る。自分だけが正しいと思ひ込むと、私たちはいつの間にか独善的、傲慢的になり、それがさらに進むと、結局、この世で一番悪い、寂しい独りぼっちになってしまうわけだ。これに対して、右側の⑨には仏教でもとても重要な言葉である「共栄」が、⑩には傲慢の反対語である「謙虚」が入る。

①②③④⑤⑥⑦⑧というように左側に行くところで行き止まる。しかし①②③④⑤⑨⑩⑪というふうに右側に進むと、矢印がぐーっと伸びてまた①に繋がって循環式になる。

今日皆さん方に覚えていただきたい幸せの条件というのは、実は⑫なのだ。私は⑪までは十年以上も前に完成させていたが、⑫を私に授けてくれたのが、東日本大震災だった。

東日本大震災が起きて、私は二十八日目から、まったく馴染みのなかった岩手・宮城・福島・茨城県の仮設住宅に行つて「今こそ強く生きましょう」と説いて回つた。その日数

は二年間で百二十日を超えた。地震とか津波は地球規模の問題だから、受け入れるしかない。でも原発問題だけは違う、原発はダメだ、と思つていた。ところが、福島第二原発から三キほどのところにある浄林寺の早川住職の言葉がきっかけとなって、原発問題はいい悪いを超え、もつとしっかり考えていかなくてはならない大問題なのだ、とわかつてきた。つまり今まで知らなかった体験（話を聴く）をすること、それが新しい価値観となつて新たな思いが生まれる。豊かな考え方が生まれて、新たな生き方に繋がる。そこで⑫は「聴話」となる。

偶然にも⑪も調和、⑫も聴話、同じ「ちょっとわ」だが、聴話という言葉は日本語にはない。ただし下に器をつけて、聴話器という言葉があつて、これは今では補聴器といわれるものだ。人の話を聴くことによつて私たちは聴話をする事ができる、そして①の体験・経験に繋がるから、①②③④⑤⑨⑩⑪⑫は常に循環して、自分を豊かにすることができるといふことを覚えておいて欲しい。

「よいほどの縁」という言葉

仏教の世界で、人と人との出会いのことを「縁」という。お経には縁としか出てこないが、不思議なことに皆さん方がこの字を使うときは、この上に良とか悪とかつけたがる。良縁・悪縁というのはお経には出てこず、俗

語である。この出会いの上に、良いとか悪いとかいいつた価値観をつけている間は、本当の意味でこの縁を育てることはできないが、この使い方がわかればきちんと会話ができるようになる。

ここから私が四十年かけて勉強してきた、仏教における人間関係論についてお話ししたいと思う。皆さん方の価値観を捨てるとは言わないが、その価値観を横に置いて、素直な気持ちで聞いていただければ、間違いなく幸せな方向に角度を変えられると思う。

今日私はご縁があつて、皆さん方の前に立っている。私なりに精一杯お話をさせていただいているが、そのとき、皆さん方が心の中で、へえ、坊さんの話面白いねと言つてくださると、ここは良縁の集まりになる。しかし私が一言でもここで気に入らないことを言うと、皆さん方は心の中で「こう言う、へえ、坊主のくせに偉そうに言いやがって……」とするとここは悪縁の集まりになる。

縁のタネを明かすと、好きとか嫌い、いいとか悪いという価値観、感情をつけることができるのは、縁があつたあとのこと。しかし私たちは一度その縁に自分の価値観、感情をつける、特に「悪縁」の感情をつけてしまうと、その自分の価値観、感情ばかりを大事にして、与えられた縁を失つたり、見失つたりすることがある。

ではどうしたらその不必要な好き嫌いを超えて、この縁を受け止めることができるのか、出会いを育てることができなのか。

私はそれをお経に探していき、ようやくその答えを見つけた。漢字七文字「百千万劫難遭遇（ひやくせんまんごうなんそうごう）ありえないような出会い」、この意味を考えると、多分、世界平和の言葉なんだろうと思っている。なぜ今、私たち人類は親が子を殺す？ 子が親を殺す？ 人が人を殺す？ それは命に対する、出会いに対する勉強が足りないからだ。

私はその七文字を、こんな言葉に訳した。今日、皆さん方にはこの言葉を持って帰っていただきたい。これこそが、大谷徹英そのものだとおもいます。私はこの言葉をいただき、これを広めるためにこの世に生まれてきたと思って毎日しゃべっている。

それが「よっぽどの縁」という言葉。

よっぽどの縁がなかったら、同じ屋根の下で家族と呼ばれる人にはならない。そしてよっぽどの縁がなかったら、私たちは、同じ時間、同じ空間を、こうやって過ごすことはないのである。

私は、今日、宮崎県都城から車と飛行機、電車乗り継いでここまで来た。そういう文化があったから来られたが、もしなかったらまだ九州から出られなかったでしょう。車も

飛行機も電車も、何にも邪魔する作用が働かなかったから私はここに立てている。皆さん方だつて、今は何気なく座っておられるが、皆さん方にも何も邪魔するという作用が働かなかったただけのことで、今日この回に参加することを楽しみにしていても、出かける寸前に来られなくなった人がいないとも限らない。そのときに簡単に、車で来た、電車で来

【講師略歴】

大谷 徹英（おおたに・てつじょう）

プロフィール

・一九六三（昭和三十八）年四月十六日、東京都江東区にある浄土宗の重願寺（じゅうがんじ）住職の大谷旭雄（おおたにきよくゆう）の二男として生まれる

・芝学園高等学校在学中十七歳の時、故・高田好胤薬師寺住職に師事、薬師寺の僧侶となる
・龍谷大学文学部仏教学科卒業、同大学院修士課程修了

・一九九九年春から全国各地で「心を耕そう」をスローガンに法語行脚

・二〇〇三年八月十六日 薬師寺執事 就任

・二〇一七年六月十六日 薬師寺副執事長 就任

・二〇一九年八月十六日 薬師寺執事長 就任

その他

・奈良少年院&大阪矯正管区篤志面接委員

たというが、車だつて電車だつてつくつてくれた人がいる。道路だつてレールだつて敷いてくれた人がいる。そのレールの鉄を掘り出してくれた人もいる。

そう考えていくと、私たちはたまたまでも偶然でもない。頭では理解できないようなお整えの層が整って、私たちは出会っている。これが「よっぽどの縁」のだが、それを目先の、たまたまとか偶然とか、好きとか嫌いとか、そんなレベルでしか扱えないから、私たちは与えられている縁を育てることができないのだと思う。そこには、たくさんの「おかげさま」が詰まっているということを忘れてはいけないと思う。

以上

★連合駿台会新運営組織表を掲載

本年度は役員改選の年ではありませんが、監事の坂田英夫氏が一身上の都合で辞任されたため、新しく渡邊建三氏（五十二年・法学部卒）が選任されました。

また、財務委員会では、吉田光一郎氏（五十六年・商学部卒）が、新たに副委員長になられました。

新しい組織表を次ページに掲載いたします。なお、この役員の任期は、来年の総会までとなります。

連合駿台会運営組織表

〈理事会〉 〈会長〉 田村 駿			
〈副会長〉 山田 憲典 坏 昭二 村田 嘉一 青柳 勝栄 畠中 君代 鈴木 紘一 水江 博 佐藤 健 山田 幸夫 向井 眞一 栗原 権右衛門 中川 敏洋 三枝 富博 山本 良一 木下 唯志 西澤 豊 坂田 正弘 佐野 公哉 草木 頼幸 池田 一義 河村 博 杏掛 英二 木村 健一 〈特別顧問〉 河野 典男 長堀 守弘 山口 政廣 日高 憲三 向殿 政男 〈顧問〉 根田 哲雄 前川 一郎 藤巻 伴英 原田 榮 村岡 健 武田 宣夫 有賀 隆治 熊崎 勝彦 丸山 律夫 上西 紘治 鈴木 勝利 上田 廣一 岡本 満夫 佐藤 仁 大原 幸男	運営役員 〈専務理事〉 当山 明彦 〈常務理事〉 齊藤 柳光 小山 修 高澤 徹 浅井 宏 鈴木 隆志 〈常任理事〉 山田 朝彦 潮田 伊佐夫 長谷川 進一 徳丸 平太郎 杉浦 伸二 伊原 敏雄 並木 洋一 宮下 隆 高橋 郁夫 吉田 光一郎 古賀 慎一郎 大石 哲也 〈理事〉 小島 清治 眞壁 八郎 宇川 一夫 松崎 優子 富流水 孝二 青木 幹則 関根 均 大前 実之 石橋 良一 栢森 靖 馬場 範夫 弓野 理恵 大野 正美 安達 明正 室井 恵明 林 威樹 中根 武 谷原 誠 宮本 浩二 渡邊 洋三 根田 吉雄 塙 英幸 相臺 志浩 山口 大介 神林 光	〈総務・事業委員会〉 委員長 鈴木 隆志 副委員長 山田 朝彦 杉浦 伸二 並木 洋一 宮下 隆 担当委員 大野 正美 室井 恵明 中根 武 渡邊 洋三 塙 英幸 山口 大介 神林 光 ・例会の運営、講師などの交渉 ・新年会、バス旅行、オープンゴルフ会など親睦活動の開催 ・その他、大学関係のイベントへの参加奨励など	
		〈組織・会員増強委員会〉 委員長 高澤 徹 副委員長 潮田 伊佐夫 長谷川 進一 担当委員 宇川 一夫 松崎 優子 関根 均 石橋 良一 栢森 靖 馬場 範夫 ・新会員増強のため種々のプログラム実施 ・新会員入会審査 ・長期的に見た会員入会基準のスタディと新提案	
〈広報委員会〉 委員長 齋藤 柳光 副委員長 大石 哲也 担当委員 弓野 理恵 宮本 浩二 根田 吉雄 相臺 志浩 ・会報の発行並びに編集 ・ホームページの維持・管理 ・会員間の情報交換を促進		〈大学支援委員会〉 委員長 浅井 宏 副委員長 伊原 敏雄 高橋 郁夫 担当委員 小島 清治 眞壁 八郎 富流水 孝二 青木 幹則 大前 実之 安達 明正 林 威樹 ・大学が求める支援プログラムについて個々に検討、支援の実施 ・学術賞の報奨金、対象者などについて効果的な支援策の検討 ・寄付講座など大学への諸行事の支援プログラムの計画・実施	
〈財務委員会〉 委員長 小山 修 副委員長 徳丸 平太郎 吉田 光一郎 古賀 慎一郎 担当委員 谷原 誠 ・入会金、年会費、広告料など、当会資産の管理 ・当会資産の活用方法について協議、用途などの提案 ・新しい大学支援システムなどへのアドバイス		〈運営委員会〉 … 会長・専務理事・各委員長 ・各委員会活動状況に関する、情報シェアおよび意見交換 ・連合駿台会全体の活動についての提案と討議	
〈監事〉 二宮 充子 渡邊 建三		1. 理事会 … 会長・副会長・専務理事・常務理事・常任理事・理事・特別顧問・顧問・監事 2. 各委員会 … 委員長は常務理事、副委員長は常任理事、担当委員は理事 3. 必要に応じて正・副会長会議を開催することができる	

◆新入会員の紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・到着順)



大澤 道雄
昭和五十三年・商学部卒
代表取締役社長
東京都江東区在住



古本 英樹
昭和六十三年・法学部卒
新菱冷熱工業(株)
執行役員
埼玉県戸田市在住



今井 健
昭和六十年・商学部卒
(株)富士通総研
エグゼクティブコンサルタント
神奈川県相模原市在住



今井 武人
平成元年・経営学部卒
(株)みずほ銀行・執行役員
千葉県印西市在住



笠原 盛泰
昭和五十九年・商学部卒
(株)ハクヨーポレイション
代表取締役
愛知県豊川市在住



北島 力三郎
昭和六十二年・法学部卒
(株)京王プラザホテル
取締役総支配人
東京都台東区在住



横山 修三
平成二年・政経学部卒
(株)東急R・デザイン
取締役専務執行役員
東京都世田谷区在住



吉田 重郎
昭和六十二年・経営学部卒
神鋼不動産(株)・常務執行役員
東京都新宿区在住



岩永 省一
平成元年・経営学部卒
(株)りそなホールディングス
取締役兼代表執行役
神奈川県川崎市在住

◆明大ニュース

●明治大学校友会

二〇一九年度定時代議員総会を開催

明治大学校友会は七月二十八日、駿河台キャンパス・リバティホールで二〇一九年度の定時代議員総会を開催した。代議員総会は校友会の会則が定める重要事項を審議・決定する会議で、当日は代議員総数五百九十六人中、委任状を含め五百四十五人が参加。大学からは来賓として、柳谷孝理事長、土屋恵一郎学長をはじめ役員が出席した。

物故校友への黙とうの後、徳丸平太郎副会長の開会の辞でスタートした総会では、冒頭、向殿会長が登壇。韓国・台湾を含め全国から大勢の代議員が参集したことへの謝辞を述べた上で、校友会の最近の取り組みを報告し、さらなる母校支援を呼びかけた。

続いて、来賓を代表して柳谷理事長、土屋学長、須藤政弘連合父母会長がそれぞれ日頃の感謝や祝辞を述べた。

その後、議長団・議事録署名人らを選出して議事に入り、昨年度会務の報告と決算、二〇一九年度事業計画・予算などについて審議し、それぞれ提案どおり承認された。

さらに、校友会会長の改選が行われ、新会長として前副会長の北野大氏(一九六五年理工学部卒)が選任された。北野新会長があい

さつに立ち、向殿前会長への謝辞とともに、「前会長が提唱した『明治はひとつ』という素晴らしいキャッチフレーズと精神を今後も継承したい」と意気込みを語った。

議事終了後は、卒業生校友表彰が行われ、親子孫三代または兄弟姉妹三人以上で明大を卒業した六組の校友をそれぞれ表彰した。このほか、十月六日に「全国校友千葉大会」を開催する千葉県東部支部・西部支部への大会旗のリレーや、千葉大会実行委員会による大会PR、来年度開催の香川大会の案内も行われた。

最後は、万歳三唱後に肩を組んでの校歌斉唱。齋藤柳光副会長が閉会の辞を述べ、総会は盛会のうちに終了した。

校友会活動を通じて大学にできることは

校友会長 北野大

まず初めに、向殿前会長には十年もの長きにわたり校友会長として母校の発展にご尽力をいただき、本当にありがとうございます。

物事を成すにはキャッチフレーズが大切です。「クールビズ」が成功したのも、その言葉の持つ素晴らしさとトップダウン方式の進め方です。わが明大校友会にも向殿前会長の提唱した「明治はひとつ」という素晴らしいキャッチフレーズがあります。このキャッチ

フレーズと向殿前会長のトップダウンの運営方針により、校友会活動は大変に活性化されました。

今回、会長職を仰せつかるにあたり、これまで提唱されてきた「明治はひとつ」に代わる、いいキャッチフレーズがどうにも思いつかびません。「ワン明治」や「オール明治」ではどうにも新規性がありません。したがって私は「明治はひとつ」を今後も継承したいと思います。

かつて小泉元総理大臣が、「人生には三つの坂」があると言われました。「上り坂」「下り坂」、そしてもう一つが「まさか」という「まさか」です。われらが母校明治大学はまさに上り坂で大変頼もしく、一方自身の人生はそろそろ「下り坂」であると思っておりますが、ここに「まさか」という新しい「まさか」が加わりました。

今後は、二〇一九年度の事業計画に従って爾々と向殿先生の敷いてこられたレールの上を走っていきたいと思います。私自身は年齢的には喜寿で年に不足はありませんが、校友会の運営についてはまだまだ若輩です。皆さま方のご協力、ご指導をいただきながら四年間の任期を全うしたいと考えています。最後にケネディー大統領の有名な就任演説を引用して会長就任のご挨拶に代えさせていただきます。

And so, my fellow alumni members, ask not what your alumni association can do for you, ask what you can do for our Meiji University through alumni activities.

●二〇一九オープンキャンパス

過去最多の約六万五〇〇〇人が来場

明治大学の各キャンパスを受験生らに開放し、大学生活の一端に触れてもらう盛夏の恒例行事「オープンキャンパス」が八月、駿河台・生田・中野の三つのキャンパスで開催された。

今年のオープンキャンパスは、文系学部中心の駿河台キャンパスで八月二～四日の三日間、理系学部中心の生田キャンパスで八月七日、八日の二日間、国際日本学部・総合数理学部中心の中野キャンパスで八月二十日、二十一日の二日間の開催となった。全日程とも事前参加登録制にもかかわらず七日間で過去最多となる六万四九五〇人の高校生や保護者らが来場し、会場周辺は連日大盛況となった。

各キャンパスとも、保護者対象・学部別・入試などの各種ガイダンスや模擬授業、現役明大生によるトークライブ、キャンパス見学ツアー、個別相談などを実施。研究室・ラボツアーや、ゼミの取り組みなどを学生が趣向を凝らして紹介する独自企画も多くの参加者にぎわった。

受験生らは、多彩なプログラムへの参加や現役学生・教職員とのふれあいを通じて、大学生活への期待と、明治大学での学びに関心を深めた様子だった。

●土屋学長

マレーシア工科大学を表敬訪問

土屋恵一郎学長は八月二十日、学長特任補佐の堀江正彦元マレーシア大使らとともに、マレーシア工科大学（UTM: University of Technology, Malaysia）を訪問。ワヒド・ビン・オマー学長、国際担当のイズメイ副学長らと、両大学のさらなる連携強化に向けて意見交換を行った。

UTMと本学は、本学国際化の草創期からの協定校として、二〇〇四年に学術交流協定を結んでおり、学生・研究者交流において着実な成果を積み重ねている。

UTMは、マレーシアで最も古い理工系大学で、マレーシアにおける工学系人材の三分の二を輩出している国立の研究重点大学。本部はマレー半島最南端、シンガポールに隣接するジョホール州に位置する。

懇談では、交換留学や本学大学院経営学研究所との間で実施されているダブルディグリー・プログラム、工学と経営学のコラボレーションによる連携が着実に深化していることなどが確認された。その上で、UTM側

から、明大生を受け入れる留学プログラムの拡充と、さらなる研究交流を促進させたいとの意向が示された。

土屋学長も、両大学のキャンパス内にあるサテライトオフィスを活用して、連携を強化していきたいと応えた。また、理工系分野に加え、農業やライフサイエンス、折り紙研究やマンガ・ゲームなどのクールジャパン分野などとの新たな可能性についても期待を述べた。

二時間ほどの懇談を終えた土屋学長は、芳名帳に「UTMとの友情と未来のために」と記した。ワヒド学長からは、来年十一月に開催されるUTM学長フォーラム二〇二〇への出席と基調講演が要望され、あらためて固い握手が交わされた。

翌二十一日には、UTMクアラルンプール校の中にあるマレーシア日本国際工科院（MJIT）のアリ院長とも面談。推進中の共同研究等について意見交換する機会を得ることができた。

●連合駿台会寄付講座

「自ら考える、動く、繋げる」

明治大学の生涯学習機関リバティアカデミーは七月二日、連合駿台会寄付講座「自ら考える、動く、繋げる」を駿河台キャンパス・グローバルフロントで開催した。(株)ぐる

なびの顧問で、元副社長の鷹野正明氏が講師として登壇。約百八十人の参加者が熱心に耳を傾けた。

鷹野氏は明治大学政治経済学部を卒業後、(株)伊勢丹（現・(株)三越伊勢丹）に入社。松戸店長や新宿本店長、(株)新潟三越伊勢丹の代表取締役社長執行役員などを歴任。退職後は(株)ぐるなびで「食と観光」事業の推進に携わっている。働き方改革と標榜される昨今、「強みを活かし、必要とされるには」ということを鷹野氏の生き方、考え方から学ぶことを目的として開講された。

鷹野氏はこれまでのキャリアの中で、「人と人とのネットワークを大切にし、恩返しならぬ『恩送り』の精神で繋いでいくことを常に意識してきた」と力説。さらに、「情報のスピードは速く、世間から注目を集めた瞬間に古いものになってしまう。関心が消えてしまいう前に、自分はそれに対して何ができるかと考えることが重要」と述べた。最後に「これからも日本の素晴らしいモノ・コトにスポットライトを当て続けたい」とまとめる。会場から熱い拍手が送られ、講座は盛況のうちに終了した。

●国家公務員総合職試験

明大から十九人が合格

人事院は六月二十五日、中央省庁の幹部候

補を目指す国家公務員採用総合職試験の二〇一九年度最終合格者を発表した。明治大学からは十九人（前年度三十九人）が合格。うち女子は七人（同十人）だった。

明大の合格者の試験区分別内訳は、院卒者試験で「工学」一人（うち女子一人）、「農業科学・水産」一人の計二人。大卒程度試験で「政治・国際」四人、「法律」五人（同四人）、「経済」四人、「工学」二人（同一人）、「農業科学・水産」二人（同一人）の計十七人だった。

二〇一九年度試験の申込者数は一万七千二百九十五人（前年度比二千三百十四人減）、合格者数は千七百九十八人（同一人増）で、倍率は九・六倍（同一・三ポイント減）。女子の合格者数は五百六十七人で、合格者に占める割合が過去最高となった。

出身学校別の合格者数内訳では、国公立大学千三百二十四人、私立大学四百六十八人、その他（外国の大学等）六人。合格者の出身学校数は全体で百三十校だった。

●二〇一九年度「科学研究費助成事業」

二百九十五件（6億3427万円）が採択

独立行政法人日本学術振興会から、二〇一九年度の科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）の交付内定が発表された。明治大学の二〇一九年度の採

択件数は新規と継続分を合わせ二百九十五件（前年度比十一件増）、金額は6億3427万円（同3851万5000円増）となった。

科学研究費助成事業（科研費）は、全国の大学や研究機関で行われている研究活動に必要な資金を研究者に助成する仕組みの一つである。人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を段階に発展させることを目的とする「競争的研究資金」である。複数の研究者による審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成が行われる我が国最大規模の競争的資金制度で、社会の困難や障害を突破する画期的な研究成果を多く生み出している。

科研費の中核となる研究種目は「基盤研究」で、研究期間や研究費総額によってS・A・B・Cの4つに区分されている。また、若手研究者の自立を支援する研究種目として「若手研究」が、学問の新たな領域の形成や挑戦的な研究を支援するものとして「新学術領域研究」や「挑戦的研究（開拓・萌芽）」が設けられている。

●特別推進研究インスティテュート二つを新たに設置

明治大学は八月一日、「生命機能マテリアル研究クラスター」と「再生可能エネルギー

研究クラスター」をそれぞれ大学の付属研究機関である特別推進研究インスティテュートに昇格させ、「明治大学生命機能マテリアル国際インスティテュート」と「明治大学再生可能エネルギー研究インスティテュート」を設置した（設置期間はどちらも二〇二四年七月三十一日まで）。

「明治大学生命機能マテリアル国際インスティテュート」は、理工学部の相澤守教授が所長に就任し、「人工材料に如何にして生命を吹き込むか？」を研究課題として、「生命機能マテリアル」を創製し、再生医療などへの応用に取り組んでいく。前身の「生命機能マテリアル研究クラスター」は、バイオマテリアル研究拠点のひとつとしてオリジナリティの高い研究が国内外から評価され注目を集めてきた。

「明治大学再生可能エネルギー研究インスティテュート」は、理工学部の小椋厚志教授が所長に就任し、「再生可能エネルギーの創生および貯蔵と有効利用に関する研究」を課題として、太陽電池や人工光合成、熱電発電素子などの再生可能エネルギーに関する、創エネ・省エネ・畜エネについて研究を行う。前身の「再生可能エネルギー研究クラスター」は、研究代表者の国際論文の発表数が過去五年間で学内最多の百四十五本を数えるなど、こちらも国内外から高い評価を受けてきた。

今後、各インスティテュートとも、外部資金を活用した大型研究への挑戦や、本学の研究力ブランドの向上につながるような活動に取り組んでいく。

●OB社長

▽(株)アジアゲートホールディングス㈱松沢淳氏（一九八九年法学部卒・五十四歳）

●校友会千葉県支部

鶴澤總明氏を顕彰

元明治大学総長で明治中学校の初代校長でもあった鶴澤總明氏の生前の功績を称える顕彰式が、七月二十七日、「鶴澤總明博士頌徳碑」が設置された千葉県茂原市立新治小学校で挙行された。これは二〇一九年十月に開催される「第五十五回明治大学全国校友千葉大会」の一環として実施されたもので、法人役員や、校友会、付属明治高等学校・中学校関係者らと、校友会千葉県支部の校友、さらに、新治小学校と茂原市文化財審議会関係者ら約四十人が出席した。

式典では飯田和人経営企画担当理事がいさつに立ち、鶴澤氏が四期にわたって明治大学総長を務めたことなどを紹介。さらに、二〇二一年に迎える明治大学創立一四〇周年記念事業の一環として、鶴澤氏に関する研究プロジェクトを計画している旨を報告した。

来賓あいさつに続いて献花や校歌斉唱などが厳かに執り行われ、顕彰式は閉式となった。

●体育会剣道部

「全日本女子学生剣道選手権」優勝報告

第五十三回全日本女子学生剣道選手権大会で一〇三位を独占という結果を修めた体育会剣道部が、七月十七日、土屋恵一郎学長を表敬訪問した。この日訪れたのは選手権大会優勝の小松加奈選手（商3）、準優勝の山崎里奈選手（法2）、三位の藤崎薫子主将（経営4）の三選手と、剣道部部長の南保勝美法学部教授、大塚武男監督ら。

選手らはそれぞれの戦績を報告するとともに、「今回の三人の入賞を力にして、十一月の団体戦につなげたい」（小松選手）、「団体戦で日本一になって部全員で喜びを分かち合いたい」（山崎選手）、「昨年の団体戦は準優勝で終わったので、チーム一丸となって頑張りたい」（藤崎主将）と全日本女子学生剣道優勝大会への意気込みを語った。それを受けた土屋学長は、「世界で活躍する選手になって」と選手らを激励。さらに、監督・コーチらの日頃の手厚い指導をねぎらった。

●硬式野球部

東京六大学野球秋季リーグ戦開幕

東京六大学野球の二〇一九年秋季リーグ戦が九月十四日に開幕。硬式野球部は、春季に五季ぶり四十度目の優勝。その後の全日本大学野球選手権大会でも三十八年ぶりの日本一を果たし、大きな期待がかかる中での開幕となる。

明大は、一週目で東大と対戦。七月開催の日米大学野球で最高殊勲選手賞を受賞した森下暢仁主将（政経4）を中心に、幸先のよいスタートを切りたいところ。春秋連覇、さらには明治神宮大会制覇を目指して「猪突猛進」の秋を迎える。

●ラグビー部

関東対抗戦A優勝目指して、前へ

関東大学ラグビー対抗戦Aグループが八月三十一日に開幕した。九月から十一月にかけて開催されるラグビーワールドカップ二〇一九日本大会との兼ね合いで、八月三十一日から九月十五日までの三戦を前半、十一月三日から十二月一日までの四戦を後半とする変則開催となる。

昨年、大学選手権で二十二年ぶりに日本一に返り咲いた重戦車軍団。今年は武井日向主将（商4）を中心に高いチームワークを発揮し、春季大会Bグループで優勝を果たすなど舞台は整った。明大ファイティーンに、ワールドカップに負けない熱い声援を！



明治大学の将来を支援する経済、法曹、文化など各界のOBが集う「連合駿台会」

「連合駿台会」は、1953年に設立された「茗水クラブ」と、1964年に設立された「明友クラブ」が2002年に統合して設立された、経済、法曹、文化などの各界から集うOB組織です。「連合駿台会」は、次代をリードする会員が結集し、相互に補完し合いながら明治大学に貢献してまいります。

連合駿台会会長 田村 駿 (1965年商学部卒)



資料のご請求はこちらまで

連合駿台会事務局

TEL 03-3296-4747 FAX 03-3296-4748 ホームページ <http://www.rengosundaikai.jp>
Email rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp

★明治大学広報(9月1日号)に掲載された大学への支援広告。今後2ヵ月に1回掲載していく予定です。

◆七月例会出席者

青木幹則、秋山隆敬、浅井宏、安達明正、有賀隆治、池田勝也、石川かおり、石川孝、石川均、石橋良一、市川治彦、井上欽也、伊原敏雄、植木榮、上西紘治、宇川一夫、宇敷和章、薄井健二、内川雄一郎、大野正美、大前実之、大村託現、岡本満夫、同ご友人、小山哲郎、勝俣正義、栢森靖、河合陽一郎、河原章、河村博、神林光、木下唯志、清野明男、草木頼幸、草間謙一郎、小島清治、五味道雄、小山修、根田哲雄、齋藤弘之、齋藤柳光、坂田貞夫、坂田政一、笹田学、佐藤和正、佐藤仁、佐野公哉、同ご友人、鈴木隆志、同ご友人、瀬戸正道、相臺志浩、園田英次、高澤徹、高見克司、田口幸隆、武田宣夫、田村駿、樽見俊之、辻井知明、天童美德、当山明彦、徳丸平太郎、泊三夫、同ご友人、富田浩志、富水流孝二、中川敏洋、長堀守弘、中村康一、中村豊、並木洋一、二井康夫、西澤豊、西山武夫、二宮充子、長谷川進一、同ご友人、畠中君代、幡谷公朗、搞英幸、馬場範夫、林威樹、原田榮、日高憲三、平田静子、深代尚夫、福田和彦、藤代耕一、藤田利之、前川一郎、榎野泰、松崎優子、水澤元博、向井真一、同ご友人、向殿政男、室井恵明、森一郎、山口政廣、山田晃久、山田朝彦、山田勝、山端康幸、吉田光一郎、渡邊一治、渡邊建三、渡邊洋三

【編集後記】

九月に入り、朝晩の空気には涼しさを感じられ、暑かったこの夏もようやく終わりの気配が見えてきました。皆様も夏の疲れを癒しておられるのではないのでしょうか。

大学時代には体同連ハイキング部に所属しておりましたが、六月に、クラブの夏合宿山行で訪れた尾瀬に、四十年ぶりに行ってきました。

湿原の中に延々と続く木道の光景は変わらず昔のままでしたが、飛び交う会話は様々な国の言葉も多く、改めて日本各地の外国人観光客の多さを実感しました。また小雨模様というあいにくの天候で、美しく見えるはずの至仏山や麓ヶ岳も雲の中で残念ではありましたが、水芭蕉のきれいに満足して帰ってきました。ただ、学生時代よりはるかに楽なルートを歩いたのにも関わらず、翌日の筋肉痛に四十年の重みを感じた次第です。

ハイキング部は残念ながら現在では廃部となってしまいました。同期仲間とは、子育てが一段落した十数年前から時折集まっては旧交を温めています。数年前からはLINEを活用して近況報告をしたり会合の日程調整をするなど、コミュニケーションの取り方も今様に変化をしております。

昨年は「オトナの修学旅行」と称して、その仲間と京都・大阪を旅し、紅葉を楽しんできました。道案内は京都在住の友人が務めてくれましたが、時折団体行動を乱し個人行動に走ってしまうオトナすぎる我々は、ずいぶんと苦勞をかけてしまったと反省しております。

学生時代の旅行といえは夜遅くまで飲み、語らったものでしたが、昼間歩き回り疲れてしまった「アラ還」の我々は、悲しいかな二次会に行くこともなく、寝るときに同室者に迷惑をかけるようにとあえて選んだビジネスホテルのシングルルームに直行し、翌日のために英気を養ったのでした。そしてまた翌日は、大阪の街を大いに楽しめました。

このような友人達と明治大学で出会ったことに感謝の思いです。令和元年、還暦を迎え第二の人生を歩みだした仲間も出てきましたが、令和の時代も良い付き合いを続けていければと思います。

(弓野 理恵)